

小規模多機能型住宅介護「サービス評価」 総括表 2022年度

法人名	長野県高齢者生活協同組合	代表者	田中 夏子	法人・事業所の特徴	「ひとりぼっちにならないしない」をスローガンに、誰もが安心して暮らせる地域を作る協同組合です。みんなの家下條は、一人ひとりと手と心をつなぎ想いを大切にする介護を目指しています。それぞれのできることやりたいことを中心に、その人らしい生活を送る為の支援を行います。				
事業所名	みんなの家下條	管理者	百瀬 拓郎						

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	1人	3人	1人	1人	1人	人	4人	人	12人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	・評価は進捗状況の把握と捉えることが大切であり、結果だけを見るのではなく、その過程にある小さな積みかさねを大切にしていきたい。またより実践に即した計画策定と、専門職、社会人として成長することを意識していきたい。	・「ひやりはっと」「事故報告書」「にっこり報告」などを活用し、日常の些細な出来事を逃さないための工夫を行っており、漫然と仕事を進めないための道義付けになっている。ただ人材育成については課題が残っており、日常業務におけるPDCAサイクルの徹底や、より効果的な学習機会の提供が必要である。	・専門職である前に一人の人であることを大切にされている。 ・誠実に職場運営が行われている。 ・事業所の姿勢がよく伝わった。 ・大切なことが計画にあり、事業所のこだわりが感じられる。 ・計画に対する評価が難しいと思う。マイナス点を取り上げることも必要だが、プラス点にもしっかりと目を向けることも大切。	・専門職であることと合わせて、人間力を養うことも大切にしていく。そのための研修会の実施や、日常業務におけるマネジメントやコミュニケーションの強化を意識的に行っていく。
B. 事業所のしつらえ・環境	・地域の社会資源であることにこだわり、誰もが訪問しやすい雰囲気づくり（清掃や植栽）を行います。また、コロナ禍前の状況に戻していくため、地域ボランティアや関係機関との交流を積極的に行います。	清掃や事業所周辺の植栽は確実にできており、来所者や地域の方からもお褒めの言葉をいただいている。また、消毒も徹底しており、安心して利用いただける。ただ、開設から10年目となり、壁や床の軽微な損傷も見られる様になっており、優先順位を決めて修繕する時期となっている。	・いつも綺麗に清掃されている。 ・玄関先の花壇がキレイ。いつ見ても手入れが行き届いている。 ・フロアーに物が多い（？）使わないものは倉庫や事務所に片づけた方が清潔に見える。 ・カーテンの破れが気になっていたが、新しい物に代わっていた。 ・毎日の様に消毒をされていると聞いた。安心して利用できる。	・地域の社会資源であることにこだわり、誰もが訪問しやすい雰囲気づくり（清掃や植栽）を行います。また、コロナ禍前の状況に戻していくため、地域ボランティアや関係機関との交流を積極的に行います。
C. 事業所と地域のかかわり	・引き続き地域で開催するイベントなどには積極的に参加を行い、地域の方との交流に努めます。 ・下條村民にとっての大切な社会資源となる様、より多くの方に知って頂く取り組みを行います。 ・下條村短期宿泊制度、介護職員初	・引き続き感染症への配慮は必要であったが、地域との連携については、コロナ前の水準に戻すことができた。また、介護保険事業意外の取り組みも、行政と連携しながら実施できた。ただ、当初予定していた相談会などの企画は未開催であり、引	・皆さん気持ちのいい挨拶で、用事で事業所の来ても心地良い。 ・昔は知名度が無かったが、今では知らない人はいないのではないか。 ・地域の行事にはいつも参加されている。とても親しみを感じる。 ・相談ごとは包括に行くと思うが、	・私たちの活動は地域との良好な関係があつて初めて成立することを自覚し、日常における関係づくりは元より、開設以来続けている地域行事の企画や参加を継続しています。合わせて今年度においては、地域に出ていく取り組みだ

	任者研修、介護相談会などの定例開催などを行い、より多くの方へのお役立ちを目指します。	き続き課題として残った。	事業所の存在はありがたい。 ・みんなの家が地道に積み重ねた成果が出ていると思う。地域から信頼される存在である。	けでなく、地域の方を招き入れる仕掛けづくりを進めていきます。具体的には、介護相談会、学習会、趣味の教室等の企画を検討・実施します。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	・外出レクや地域のイベントなどを計画的に実施していきます。 ・新型コロナへの感染対策の徹底を行い、地域の方を招き入れることのできる企画を行います。 ・引き続き地域の諸団体との関係を深め、色々な場面での連携を目指します。さらに、これまでにお付き合いの無い方々との関係づくりも積極的に行います。	季節行事やイベントへの参加は進んでいるが、利用者一人ひとりに目を向け、生活を支える取り組みになっているかは課題が残る。さらに、地域との連携についても表面的には進んだ様に見えるが、決して十分とは言えず、さらなる関係づくりが必要である。	・定例の報告を通じて、地域に出向いている様子が伝わります。 ・地域の方を巻き込んだ取り組みで、よりサービスが充実する。 ・感染症で制約がある中でも、工夫していることが伝わる。 ・事業所近隣の地域では無く、利用者宅を中心とした地域も考えることが大切。	・職員を中心に参加している地域行事などについて、利用者も一緒に参加できる方法を検討・実施します。また、定番の季節行事だけでなく、送迎時などの日常の時間を活かした取り組みも進めていきます。
E. 運営推進会議を活かした取組み	・会議進行の工夫を行なながら、参加者からの意見が出しやすい会議運営を目指します。 ・より多くの職員に参加する機会を設けることで、地域とのつながりを考えるきっかけとします。 ・参加者を固定するのではなく、いろいろな立ち位置の方が参加して頂ける様な働きかけを行います。	・色々な立場の方への声かけや、会議運営の工夫などを進めることができた。参加した職員にとっても地域とつながるいい機会となっており、仕事における視野を広げる機会となっている。一方、参加者が固定化されていることから、出される意見に若干のマンネリ化が見られている。	・写真を使い報告があるので様子が分かりやすくて良い。 ・事例紹介（認知症や介護情報）があり勉強になります。 ・小さい事業所ならではの細やかさが見られるのが良い。 ・介護のことは分からぬが、地域のことならよく分かる。お互いの強みを生かし合っていきたい。 ・参加者がマンネリ化しない様に、色々な人に声掛けをするといい。	・一方通行の報告会議にならない様に、皆さんが意見を出せる様な、参加型の会議を目指します。また、参加者についても、現在ご参加いただいている方意外にも、地域で活躍される色々な分野の方々にも参加を促してみます。
F. 事業所の防災・災害対策	・年2回の消防訓練については、より場面設定を明確にした訓練を行うことで、実践で活かせる訓練としていきます。 ・消防との連携だけでなく、消防団との連携を図っていきます。 ・上半期を目指すBCP（事業継続計画）の作成を行います。	・防災訓練や業者による消火設備の点検は確実に実施した。また、場面を設定しての避難訓練においては、避難手順の確認と合わせて、新たな課題（防災頭巾やヘルメットの活用、利用者への声かけの方法等）に気づくことが出来た。	・スプリンクラーや消火設備の定期点検が報告されており安心。 ・消防団や地区との日頃からの連携を進めて欲しい。いざとなったら近所の方々との協力が必須。 ・消防団は避難訓練にも来てもらえると思う。声をかけてどうか。 ・幸いにも交番が直ぐ近くなので、日常的に情報交換をしておくことが必要。	・引き続き定期訓練の充実を図ります。さらに、近隣の住人や派出所等の方と連携しての訓練を企画し、いざと言う時のための避難手順などの確認を進めます。 ・BCPについては、定期的な見直しと職員学習を実施します。 ・建物内の避難路について、障害物等が無いか定期的に検査を実施します。